

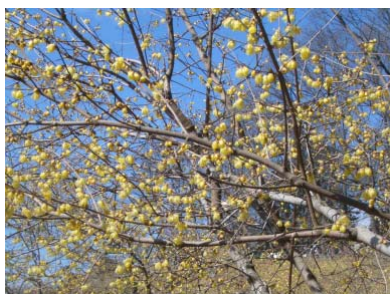
防衛庁の省昇格が今回こそは実現するだろうという確信にも似た期待を持っていたが、防衛施設庁の所謂官製談合問題で雲行きが怪しくなってきたようだ。最新のニュースでは見送り決定のようだが…。

更には、在日米軍の再編に関連して地元対応の主役である施設庁が機能不全にも近い状態であっては、3月を目途に纏める事とされている日米協議も視界不良である。懸念されるのは、日米協議が不調ともなれば、日米同盟に重大な亀裂が生じかねないということである。唯でさえ、フラストレーションが溜まっていると言われるブッシュ政権から、日本信ずるに足りぬとの最後通牒を突きつけられぬという保証はない。

本日のニュースで、東京都の瑞穂町が、在日米軍再編に関連する航空自衛隊総司令部の横田基地受け入れを容認と言うか認めたという。拍手喝采だ。世界の常識では当たり前前の決断であっても現今の日本では特別な決断と受け取られるから、面白い国である。

談合問題に目を瞑るべしとは言わぬ。それはそれとして、しっかり対応策を考えて貰わねばならぬ。施設庁の特に関係部局の人事をも含む万般の閉鎖性に起因しているのだろう。国家として最も大事な日米関係のより良き関係構築に向けた官邸サイドというか、総理の強力なリーダーシップを期待したいものだ。が、余り御関心がないように見えるのは僻目だろうか？

トリノ冬季オリンピックが開始されたが、メダルを期待されていた数少ない種目での惨敗振りには愕然たる思いである。ベテランが失格するという大失態を犯すなど考えられない。これから始まる中盤及び終盤において、序盤の不振を大挽回する日本選手の活躍を大いに期待しよう。



さて、孫娘二人を連れて、秩父地方長瀨の標高約 500mの宝登山に蠟梅の観梅に出かけた。宝登山の頂上から南斜面に約 2000 本とも 1500 本とも言われる蠟梅が、黄色い蠟細工のような花が、5、6分咲きだろうか、暖かい陽射しの中に甘い香りを漂わせていた。

蠟細工を思わせる花卉から蠟梅とも言われるが、中国原産であり、17 世紀に日本に入ったもので、別名唐梅とも言われている。梅という名前がついてはいるが梅とは別の蠟梅科に属するという。

蠟梅園には、「和蠟梅」「素心蠟梅」「満月蠟梅」の 3 種があり、素心蠟梅は花の外側だけではなく内側も黄色いのが特徴である。他の種類の蠟梅は、内側がちょっと赤っぽい。梅は桜とは違って豪華さはないが、凜とした気品があると言えよう。

宝登山麓の駐車場は満車である。秩父鉄道が運営するロープウェイも一時間待ちらしい。意を決して、小学 3 年と幼稚園児の女の子を連れて歩いて登ることにする。約一時間、文句も言わず、楽しそうに歩く孫娘を見て流石は元自衛官の孫（余り関係ないか？）と妙な関心をしつつ、何処かの歩こう会等や老夫婦達を追い越す。

山頂には、宝登山神社奥宮の小さな社がある。不思議なことに通常の神社で見掛ける狛

犬とは一風変わった狛犬なので、良く見てみると、何と山犬である。何故か、それは奥宮の由緒書きを読んで納得した次第である。

「この地は、今から 1900 年の昔、第 1 2 代景行天皇の皇子日本武尊<sup>やまとけるのみこと</sup>が、神霊を拝したところと伝えられます。日本武尊は東国平定の折、この山の神妙な雰囲気と美しい姿に心引かれ、身を清め山に分け入りました。しばらく進むと突然の炎に包まれ、危うい事態に陥りました。その時、何処からか大きな山犬たちが現れ荒れ狂う火を消しとめ、尊を山頂に案内すると姿を消してしまいました。

尊は山犬たちが、山の神の「神使」＝大口真神（おおくちまかみ）と悟られ、山を「火止山」（ほどさん）と名づけ、秩父の山々が幾重にも連なる荘厳な眺めは、神を祀るに相応しいところとされ、神日本盤余彦尊（かむやまといわれひこのみこと＝神武天皇）、大山祇神（おおやまつみのかみ）、火彦霊神（ほむすびのかみ）の 3 柱をお祀りしました。「火止山」（ほどさん）はその後、霊場として栄え、日本武尊が神霊を拝したこの地に奥宮を、麓に本社を造営しました。弘仁年中（810～824）に宝珠が山上に飛翔する瑞兆から、神社と山名を「寶登山」に定め、今日に至っています。（以下略）」

神社の守護に任じているのが山犬であることがお分かり頂けたらう。さて、蠟梅は、英語では、Winter Sweet と言われる。何故、蠟梅かというと、蠟とは年の暮れ、旧暦 1 2 月の異名が蠟月であり、即ち新暦の 1～2 月頃に咲くので、その名がつけられた。

孫達は、下山の時も嬉々として歩いていたので大したものである。

（参考：各種HP、奥宮由緒記）